

日本語オンライン授業におけるブレイクアウトルーム使用方法 —EPA教師のインタビューより—

村野 由美(フリーランス) ymjps5@gmail.com

1. はじめに

背景

- ・フィリピンEPAがオンライン研修に切り替わった→やりにくい
- ・オンライン授業において、ブレイクアウトルーム(以下、BOR)が有用

2. 先行研究

①対面授業とオンライン授業の比較

- ・ZoomとGoogle Classroomを併用した授業のメリットと課題(河内ほか 2021)
- ・教師へのインタビューから、オンライン授業のやりにくさを分析(藤本 2020)

②オンライン授業における、学習者意識

- ・同時双方向型授業で、学習者の授業参加意欲に影響を与える要因(稲垣 2022)
- ・ピアラーニング活性化のための、グループ分けの工夫と評価(戸根木ほか 2021)

➤ Zoomの一機能である、BORに焦点をあてた研究・調査は管見の限りない

研究課題:日本語オンライン授業での有効なBOR使用方法を検討するため、現場の教師がどのように使っているか実態調査を行う

3. 調査概要

調査対象者:日本人教師6名(EPAオンライン研修13期から15期まで、計3回担当)
データ収集方法:2023年8月、半構造化インタビュー(約60分/人)
分析方法:KJ法を基に、2項目に分類(①機能面 ②運用面)→ラベル付け

【表1 調査対象者の概要】

対象者	日本語教師歴	EPA教師歴*1	ICT使用状況 (3段階*2)	BOR 使用状況
A	1年9カ月	オンライン1年9カ月	3	毎時間
B	2年2カ月	オンライン1年9カ月 対面5カ月	1	毎時間
C	2年8カ月	オンライン1年9カ月 対面5カ月	3	毎時間
D	3年半	オンライン1年9カ月 対面1年	2	科目による
E	約6年	オンライン1年9カ月 対面1年7カ月	2	科目による
F	約5年	オンライン1年9カ月 対面5カ月	2	毎時間

*1 EPA教師歴:1回の研修は7カ月(第12期のみ5カ月)

*2 ICT使用状況:3=チームのIT係として他教師のフォローを行い、IT勉強会を運営

2=授業、業務で必要なICTツール以外も積極的に使用

1=授業、業務で必要最低限のICTツールを使用

4. 結果と考察

【表2 ブレイクアウトルームの使用状況】

大項目	小項目	教師の発話から抽出した共通項目
機能面	1.教師のカメラ	① 緊張感を与える/与えないため、オン・オフの切り替え ② 見回り時はオフ、発言時はオンにする
	2.ルームの特性	③ ルームを一つずつしか見られず不便 ④ デバイス2台で入り、巡回する
	3.時間設定	⑤ BORの様子を見てメインルームに戻す ⑥ ブロードキャストで時間表示/カウントダウンをする
	4.ICTサポート	⑦ 候補者同士にさせる ⑧ 授業外で個別に対応する
運用面	1.候補者の様子	① クラスの雰囲気や相性が、BOR活動に影響する ② 母語使用により、発話が増加する
	2.グループ分け	③ 日本語、ICTレベルや相性、性別などで分ける ④ 特定の候補者はペアの相手、入れるグループの配慮
	3.前説明	⑤ BORを分ける前に例を明確に示す ⑥ 理解を促すため、視覚情報を多く使う
	4.対面授業との比較	⑦ BORでは周りの様子が分からない ⑧ 対面のやり方が通用しない
	5.タスク	⑨ BOR活動は教師によってやり方が違う ⑩ 候補者が活動を理解できていないことが多い
	6.フィードバック	⑪ 質問など、聞かれたときだけ答える ⑫ 大きな間違いのみ指摘する

<結果>

① 機能面

- 緊張感を与える/与えないため、カメラのオンとオフを使い分ける
 - ・「講師のカメラをオンにすると、受講生の飽きが生じにくい」(森泉ほか 2023)という結果と異なる
 - 教師は自身が画面に映ると、学習者に影響があると考えている
- 個室(ルーム)を一つずつしか見られない点がストレス
 - ・教師はデバイス二つでログインする、チャットを送るという工夫をしていた
 - 一つずつしか見られないことを問題点と捉え、対策を講じていた

② 運用面

- 様々な状況をふまえ、グルーピングしていた
 - ・学習者の性格や人間関係を加味し、手動でグループを分けていた
 - 少人数を見られるので、クラス運営に必要な情報収集の場である
- BOR活動前の説明が難しい
 - ・対面と違うため、URLやイラストを配布するなど、視覚情報を多用
 - オンラインツールを駆使

③ 対面授業経験の有無(①②に属さない項目)

- 経験者:対面授業のほうがいいと感じている
対面授業に近づけるため、様々なツールを活用する
未経験者:対面授業と比較できないので、言及がない
ツールの使用目的が経験者と違う

<考察>

- オンライン授業のやりにくさは、対面授業との比較から生じている
- 対面授業経験の有無による、使用方法と意識の違いがある
→教師のビリーフが影響している?

5. まとめ

- ①教師は意図をもち、BORを運用していた
→学習に何らかの効果を期待していると考えられる
- ②教師のICTスキルが影響
→授業の質に差が生じる可能性がある

提案

教師:継続的な学びと、教師間の情報共有
組織:マニュアル作成や、研修などのサポート

今後の課題

教師のBOR操作が、学習者に及ぼす影響の調査と分析

参考文献

稲垣 幸博(2022)「同時双方向型のオンライン授業において学習者の授業参加に対する意欲に影響を与える要因」『教育メディア研究』28,2,1-14
大田 梨沙・平川 慶子・小川 隆子・江原 穂子・倉田 教子・平田 和子・竹本 志子・竹田 恒久(2022)「オンライン授業における外国人教員・外国人教員・外国人教員を
対象とする反転授業によるオンライン日本語研修の実践-EPAに基づく日本語研修の新たな取り組み-」『国際交流基金日本語教育紀要』19,71-82
藤田 真(2024)「同期型オンライン授業継続に至る日本語教師の意識変化プロセスとその要因-現職日本語教師へのインタビュー調査から-」
『日本語教育』187,105-119
河内 彩香・村田 晶子・長谷川 由香・竹山 直子・池田 幸弘(2021)「教員と学習者はオンライン授業をどうとらえたか-ZoomとGoogle Classroomを
併用した日本語教育-」『多文化社会と言語教育』1-0,30-45

戸根木 希・鈴木 貴久・曾根 陽香(2021)「オンラインでのピアラーニングを活性化させるためのグループ分け方法の検討」『第83回全国大会講演論文集』2021(1),383-384
綿井 理沙・原田 康也(2021)「日本人 EFL 学習者の Zoom Breakout Room に対する認識と評価」『言語学習と教育言語学』2021,47-53
孫 明清・香野 隆子・山崎 千春・穂積 浩吉(2021)「Web 会議システム(Zoom)を利用した同時双方向型遠隔教育の実践的実践」『神奈川大学紀要』62,167-177
藤本 かつお(2020)「日本語初級レベルのグループ・オンライン授業での教室活動に関する研究-担当教師へのインタビューを中心に-」『日本e-Learning学会誌』19-0,27-41
森泉 慎吾・塚本 彩日(2023)「オンライン授業における講師側カメラの表示が受講生に及ぼす心理的影響」『帝塚山大学心理学論集』6,35-42